

令和5年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	障害児入所施設 はまゆり学園	
指定管理者	法人名	社会福祉法人 みちのく福祉会
	代表者	理事長 内田大輔
	所在地	むつ市大字奥内字大室平91番地1
指定期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日（3年間）	
指定管理業務の概要	1. 障害児入所支援 2. 短期入所事業 3. 日中一時支援事業	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収入合計(A)	136,765	126,437	▲10,328
うち利用料金額	73,241	26,975	▲46,266
うち指定管理料	62,629	97,783	35,154
支出合計(B)	136,765	125,530	▲11,235
うち人件費	90,080	85,691	▲4,389
収支差(A-B)	0	907	907
組合への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	・短期入所事業と日中一時支援事業で計画より約215万円増えましたが、契約児童の実利用者は6名であったことと、措置児童が0名であったことから、予定よりも減収となっています。 ・支出においては、平成27年1月の竣工から8年目を迎え設備関係の修繕費が膨らみましたが、これまでの運営結果を科目毎に精査し、その結果を踏まえつつ適切な対応を行うことで、施設維持管理費の抑制に繋がっています。		

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
	入所	16	6	▲10
短期入所	50	189	139	
日中一時	100	243	468	

利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 ・無 【年2回実施】

- 児童への関わり方や接し方、支援方法や対応方法に関すること（対象者：入所児童の保護者）
- 行事や活動に対する評価及び改善点に関すること（対象者：入所児童の保護者）
- 短期入所や日中一時の生活面の支援の評価や改善、利用日程に関すること（対象者：短期入所、日中一時児童の保護者）

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	障害児入所施設に関する説明会	収入	0	支出	0
事業内容	障害児に関わる方を対象に、はまゆり学園のサービスについて知る機会を設け、サポートに役立てていただく。				

実施状況	新型コロナウイルスが5類に移行し、感染対策も緩和されたが、むつ下北地域においても散発的に感染が確認されていた為、集合研修は実施を見合わせております。 尚、本事業に変わる対応として、むつ養護学校の体験学習に来られた、むつ下北管内の特別支援学級に在籍する児童・保護者を対象に、はまゆり学園に立ち寄っていただき、施設見学と事業の説明を行ないました。
利用者数	施設見学者数：25組（児童：25名 保護者：27名）延べ52名 実際にご利用に繋がった児童数：契約入所2名 短期入所3名 日中一時2名

5. 個別項目評価 ※指定管理者と組合の所管課が評価

評価基準A（優良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B（適正）：計画された業務水準を概ね達成した。

C（要改善）：計画された業務水準を達成できなかった。

評価項目	自己評価	組合の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。 新型コロナウイルス感染症予防対策のため実施できず評価は空欄としています。	—	—
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の收受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤指定管理者は当該評価期間における自己評価を記載すること。

また、個別項目評価をCにした場合は、改善策も記載すること。

令和5年度の入所児童は6名であり、過去最少人数での事業運営となりました。一方、短期入所や日中一時事業を新規にご利用された児童が多くいらっしゃり、このことにつきましては、相談支援専門員はじめ関係機関の皆様方のお力添えの賜物であり、サービスを必要とされている皆様へ、はまゆり学園についての情報提供をしていただいたことが、ご利用開始のきっかけになった事例が

多くございました。また、むつ養護学校との連携として、学校見学に来られた多くの児童生徒・ご家族の皆様には、はまゆり学園にもお立ち寄りいただいたことで、学園のことを知っていただく機会となり、ご利用につながった方もいらっしゃいました。

入所児童におきましては、おかげさまで卒園児3名の移行先が無事決まり、2名が一般就労、1名が成人入所施設へと新たなステージへ向かうこととなり、全員笑顔で卒業式を迎えることができ安堵致しました。同時に今後卒園を迎える児童の生活の場、住まいの場、就労の場の選択肢や社会資源が十分ではない現状を実感し、児童だけではなくご家族も含めた総合的なサポートの必要性など、地域を取り巻く課題に直面した1年でもありました。

また、長く続いた新型コロナウイルス等の感染対策も徐々に緩和され、コロナ禍前と同様とはいきませんでしたが、年末には下北地域広域行政事務組合管理者をお招きしての「クリスマス会」を実施することができ、児童の普段とは違う笑顔や喜ぶ姿を見ることができ嬉しく思いました。

今後も、保護者様との交流なども企画しながら、児童との楽しい時間を様々な形で共有できるよう進めて参りたいと存じます。

結びに、はまゆり学園は、むつ下北圏域における唯一の障害児施設であり、児童福祉サービスの大きな拠点である他、緊急一時保護としての機能も持ち合わせております。その役割を決して忘れることなく、はまゆり学園を必要とされている皆様のご期待にお応えできる力強い施設づくりを目標として掲げ、その実現に向け、職員一丸となり真摯に取り組みを進めて参ります。

7. 組合の所管課総合評価 ㊦組合の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

令和5年度は、契約入所・措置入所者が減少する中であって、関係機関等の協力を得ながら、はまゆり学園について知っていただく機会を設け情報提供に積極的に取り組まれたことにより、短期入所事業の利用者数が増加するなど、施設の有効活用に繋がったものと高く評価されます。また、施設の維持管理にあたっては、これまでの経験を生かし、適切・迅速な対応、組合への的確な報告により施設の維持管理費の抑制に努めていただいているものと認識しております。

5類に移行した新型コロナウイルス感染症は一時的流行を繰り返す状況にありますが、今後は、感染対策に留意しながら、利用者、ご家族、施設職員と地域の皆様に笑顔が広がる事業も展開されることを期待しています。

はまゆり学園は、むつ・下北圏域唯一の障害児入所施設であり、児童福祉サービスのみならず緊急一時保護施設の機能も担う必要不可欠な施設でありますことから、引き続き、利用者の安全に最大限留意し、関係機関と連携を密にしながら専門性の高い効果的な施設運営を行っていただきますこと。また、施設を必要とする方々へ向けた柔軟な発想による情報発信への取り組みを期待し令和5年度の総合評価といたします。